



安曇野



手仕事屋さち兵衛



RECORDED BY 増田 晋, 滝川博信

ALL TRACK MIXED BY 増田 晋

ASSISTANT ENGINEER

尾立昌則、山下剛司 (パワーハウスST) 山口敦史 (フリー四谷ST)、
吉田一紀 (サウンドシティーST)

MASTERED BY 安藤 明 (関口台スタジオ第2マスタリングルーム)

DESIGNED BY 橋田貴文

PHOTOGRAPHY BY 宮下常雄、たちばな ふみ

DESIGN CO-ORDINATED BY 丸安秀治

DRAWING BY 手仕事屋さち兵衛

DERECTED BY 水川忠良

TOTAL ARTIST MANAGEMENT&MUSICIAN CO-ORDINATION 八尋隆夫 (K-FIVE)

SUPERVIZER 玉井進一 (JCM)、齊田政弘、大久保健二 (KING RECORDS)

EXECUTIVE PRODUCER 三木明博 (JCM)、坂本敏明 (KING RECORDS)

生まれちゃった悲しみ

きち兵衛

「私は、両親がかなり歳がいつてからの子で、兄弟が多く、年令が随分と離れた末っ子でしたから、生まれて意識を持った時には、産んでくれてありがとう、というものはなくて、生まれてきちゃってごめんさい、という気持ちでした。それは記憶というよりも、母親のお腹にいる時からそう思っていたような気がします。そして、これは未だに心の中から消えたことがあります」と、老いをテーマにしたテレビのインタビュー番組のなかで、あるキリスト教大学の女性学長が話していた。この尼僧姿の老学長は表情も言葉もとても静かで穏やかなものだったが、わたしはこれを聞いて、思わず深い溜め息をついてしまった。

一体、人はいつ頃から自分という者に気づき始めるのだろうか。なかには前世までも直感する者もいるくらいだから、母の胎内に在っても自覚があり、歓迎されてはいない命であることを知ってしまう悲しさもあるのだろうか。

「生まれちゃった悲しみ」は、実は誰にでもあるものだと思う。その悲しみは知ってしまった時期が早ければ早い程、その影響は大きい。幼い頃についてしまった傷は、成長と共に癒やされることがあっても、まるでヤケドの跡のようにその傷跡は薄くはなりながら、大きく広がっていつてしまう。わたしもそうだった。

「自分は生まれるべきではなかった」という自己否定の悲しみは辛く不幸なことだ。でも、だからこそ、却ってこの世に生まれてきた理由を、この手で見つけなければならなかったのかも知れない。

木彫刻も歌も文章も、今自分がしていることは、全てが生まれちゃった悲しみから始まった旅であり、そして、漸く見つけた生まれてきたことの言い訳のような気がする。わたしから生まれるものに、あまり明るさがないのは、わたしからもこの悲しみが未だに消えてはいないからなのだろうか。



1. 安曇野

きさし街

静かなせせらぎ沿いに
咲く花 オオヤマガサ
うらうらと歩く小道
雪形残る山並み

花びらにほほして
髪にもふりかかる
ふと見上げれば
春の日 安曇野

湯気立ち雲と鳥がして
隠れた木立の中
木も水陽浴びた体
思わぬ目と声にさる

陽差しがふり注ぐ
激しい蝉時雨
涼風吹けば
夏の日 安曇野

高くめけた青空に
旅立ち鳥達交り
手ばかり紅葉染
うら寂しき連れこくる

遠のく遠く雲
途がにがみてる
通り過ぎれば
秋の日 安曇野

墨絵と靨るおら
静かに時向う之止め
粉雪吹雪が止んで
星つぶがつかめそう

砂絵と靨るおら
一面銀景色
夜が降りれば
冬の日 安曇野

こゝがわたしのふる里
まべこがやさしくあかる

こゝに帰れば
わたしの安曇野

作詩・作曲 / 手仕事屋きさし兵衛 編曲 / TOSHITARO

2. 11つの日にがあつたとき ささき街

11つの日にがこゝに生み出さ 11つの日にが大人になつた
11つの日にがあつたに逢つて 11つの日にが愛と見つけた
風ももて吹いて ステキな人を早く連れ来て
いつもいつも夢を見ている さと抱に抱いてさぶやく
11がこゝの街の片あみと 誰かとふる里にしようと

ふる里と共に愛せたら 優しくなれる気があつた
こゝの街と共に愛せたら もっと愛おしくなれる気があつた
さく人へ11がこゝの街ささきとめぐり逢える
いつもいつも夢を見ている さと抱に抱いてさぶやく
11がこゝの街の片あみと 誰かとふる里にしようと

風ももて吹いて ステキな人を早く連れ来て
いつもいつも夢を見ている さと抱に抱いてさぶやく
11がこゝの街の片あみと 誰かとふる里にしようと

作詩・作曲 / 手仕事屋きさし兵衛 編曲 / 小畑和彦

3. 青春への手紙 ささ兵衛

鳥辺氏が言った本当の生きえ さみし探し ぼくは旅立ちよ
言葉ではなかに休む念はる 生きがいのやと探してみよう
とくはせりふでがたをいけて歩き始めた青春のついで
遠回りに来た見つけた答えは 今の鳥辺氏に
話してみたい。気があるよ 昔と戻して 夜と戻して

青春はなにか 若いときのこと 金で許されたみどりの季節
本当は何も知らずからさき 鳥辺氏から来たまが季節
張子の月か 意地をこめて人向らしく生き抜いてやせると
約束したのにも不当のとき 昨日の出来事
今も鳥辺氏が受けるよ 若者の証しが 鳥辺も真実

早もとのあねも鳥辺から19年 鳥辺もさき今も春までほらね
子供のはなはか 天気のはなはか 鳥辺もさき 話して聞かせる
とくはに嫌う普通の暮らし 気がつけば今もとくは暮らし
不思議な時もある 人から言われるとどう思えるよ

今も自分が解かると 探したものは 鳥辺が解かると

作詞・作曲/手仕事屋ささ兵衛 編曲/小畑和彦

4. 生きている悲しみ ささ兵衛

生きてる=には少し疲れて ため息ついでふと立ち止まる
人はどうして生きてゆくのか?
ふいにおどろき行きの場のはな 深い悲しみ
オーイ、オーイ、泣いてはがりの
ほぐれたい 迷子かまた 見えない

生きてる=には理由を探して歩き始めた 私の人生
迷路を抜けるときと越えて
孤独の鳥か たったひとりで見つけたのは
オーイ、オーイ、誰か居ないか?
私を待つ 鳥辺氏は今もここに居るのか

人は誰でも自分がいふ名の迷子と連れて尋ねて
私は誰かの何者なのか?
どこから来たか どこまで行く 旅人なのか?
オーイ、オーイ、呼びかけながら
ひとり一人で歩いて行く 歩き始める

作詞・作曲/手仕事屋ささ兵衛 編曲/TOSHITARO